

第 3 0 回議会運営委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 4 年 3 月 1 5 日 (火曜)	午前 9 時 3 0 分	開会
	休 憩 9:35-36 9:42-50 10:10-15	10:33-50	
			午前 1 1 時 2 3 分
会議場所	委員会室<オンライン出席 (O) >		
出席委員 氏 名	委員長 中村 和宏	委 員 黒田 栄継	
	副委員長正村紀美子(O)	委 員 常通 直人	
	委 員 鈴木 健充(O)		
	委 員 渡辺洋一郎		議 長 早 苗 豊
欠席委員 氏 名	委 員 中田智恵子		
説明等に 出席した 者の氏名			
事務局職員	事務局長 安田 敦史	総務係長 佐藤 史彦	総務係主査 上田瑞紀

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

- ・委員長が開会を告げ、当委員会はオンライン会議（議会委員会条例第 1 3 条の 2）である旨を説明し、中田委員の欠席及びオンライン出席委員 2 名（鈴木・正村委員）を報告した後、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

(1) 調査事項

- ア 令和 3 年芽室町議会定例会 3 月定例会議の運営について
- イ 令和 4 年度研修計画案について

当日資料 1

資料 2

3 その他

- (1) 次回委員会の開催日程（予定）について
- (2) その他

2 議 件

- ア 令和 3 年芽室町議会定例会 3 月定例会議の運営について

当日資料 1

- ・総務課長：資料 1－1 説明。
- ・正村副委員長：資料 1－2 説明。
- ・委員長：それぞれ提案予定事項について説明あったが、質疑は。
- ・(質疑なし)
- ・正村副委員長：資料 1 の「2」説明
- ・委員長：資料 1 の「2」について質疑は？
- ・(質疑なし)
- ・委員長：提案通りで決定する。

イ 令和4年度研修計画案について 資料8

- ・事務局長：資料説明（令和3・4年度事業）。
- ・委員長：新年度の研修計画案については、1月20日（第9回）の全協及び議運では2月に2度（2月2日及び21日）、また、議員会においても2月（2月15日）に1度、それぞれ、情報共有と協議を行い、依然としてコロナが収束とならず、一部流動性を含みながら、事務局を通じて、講師の予定者等と調整を進めている。本日の協議のポイントは、すでに3月も中旬となり、新年度も目前に控えていることから、一部未確定要素は含みつつも、令和4年度の研修概要を決定し、併せて、令和3年度の研修事業についても、確定させることであるので、あらかじめ御承知置きいただきたい。

まず、最初に今年度、令和3年度の研修について協議する。資料の2ページをご覧ください。「2」の中尾氏の研修は本人とも協議の結果、今年度の実施は正式に中止とし、それに代わり、東京藝術大学の阿南氏による研修を4月25日に実施することについて、お諮りする。なお、この研修については、議員会主催として実施しようとするものである。また、研修概要は、クラウドに「参考資料」として保存してあるので「5ページ」をご覧ください。なお、若干の時間休憩とするので、御参照願いたい。

- ・委員長：休憩を取り消し、会議を再開する。令和3年度事業について、意見・質疑はないか？
- ・渡辺委員：提案のとおりで良い。ただし、会場については、委員会室に限定せずに議場等広いスペースも視野に入れてはいかがか。また、研修の目的と概要に基づくと本町議会議員に限定することで良いと思う。
- ・正村委員：開催手法については、コロナの流動要素もあるので、オンライン実施ということを明確に決定してはいかがか？
- ・鈴木委員：タイムリーな内容で全体として良いと思う。ただ、手法については、本日確定させるのではなく、若干流動性を加味し決定してはいかがか？
- ・常通委員：4月に予定している研修のため、本日、一定明確にすべきと思う。これまでの間、事務局と講師との協議経過概要を確認したい。
- ・事務局長：当初から講師がこちら（芽室町）に来る前提で協議を進めている。
- ・黒田委員：協議経過を尊重すると、講師の意向を踏まえ、実施方針を整理していくべきと考える。
- ・常通委員：改めて、講師と事務局で打ち合わせし、オンラインか否かを決定し、講師の意思を尊重して研修方法を確定してはいかがか？
- ・鈴木委員：4月の研修は日時と対象は決定したので、手法については事務局と講師で協議し確定させるべきと考える。
- ・正村委員：十勝も東京もコロナへの対応は当面慎重を期する。については、人的な行き来がない中で、オンライン開催が適当と考える。
- ・黒田委員：具体的な手法が講師と調整できていないため、本日の意見交換の内容を事務局と講師で打ち合わせしていただき、改めて、協議すべきではないか？
- ・委員長：黒田委員の意見のとおり、本日の状況を講師と打ち合わせし、改めて、議運

で協議したい。なお、日時は4月25日、対象は議員16名、議員会主催で実施することを決定したい。いかがか？

- ・常通委員：講師との協議結果を踏まえた資料については、会場の設定は委員会室のみではなく議場も視野に入れるなどとし、研修手法はオンラインの可能性も示唆するような含みを持たせた表現に工夫したいいただきたい。
- ・委員長：令和3年度事業については、先ほど申し上げたとおりで決定とする。次に、令和4年度計画案について、お諮りする。1ページをご覧ください。新年度計画案については、3つのポイントがあると捉えているので、順に議論を進めたい。最初に、そのポイントを申し上げる。1点目は、全体計画として、実施回数と開催時期について、2点目は、「6」に記載の7月7日予定となっている北大公共政策大学院との研修の考え方について、3点目は、町との共催、一般住民の参加、他自治体議会への案内の考え方についてである。

まず、最初に全体計画について協議する。冒頭の事務局説明のとおり、前回協議以降追加となった研修として、議員会主催として「早稲田大学マニフェスト研究所佐藤研究員」の研修も予定したい旨の提案があった。資料では、5月以降7月頃まで、ほぼ毎月、事業が予定されることになるが、実施回数と時期について、意見をいただきたい。

- ・正村委員：来年度については、7月頃までをめどに研修を完了させるべきと考える。また、他の活性化事業（モニター会議、意見交換会等）も並行して実施することになると、若干活動量が多い傾向を感じる。
- ・渡辺委員：議員の任期については、4年で1期のため、単年での事業のあり方ではなく、「期」で計画していくべきと捉えることから、今年度の研修時期は、上半期に固執することはないと考える。
- ・黒田委員：議長会主催（7月6日）のオンライン開催は可能性があるのだろうか？
- ・事務局長：全道一円のオンラインは技術的に不可であり、道内を4～5ブロックにエリア設定した場合には講師の確保が困難とのこと。そのため、全道議長会の研修については、中止か開催の2択となっていると伺っている。
- ・鈴木委員：全道議長会の研修及び北大公共政策大学院との連携協定事業については、コロナ禍の影響を鑑みると実施の見通しは困難と捉えている。また、議員会主催の2つの研修を含めた4つの研修メニューを夏までに完了するには、日程的にハードなイメージがあるので、全体事業（モニター会議や町民との意見交換会など）の実施時期を調整するなど念頭に置くべきと考える。
- ・常通委員：現時点で流動要素はあるものの、この計画で決定すべきと考える。なお、年度明けにも随時、コロナの状況に応じて、実施の可否や手法の検討をしていくことで良いと考える。
- ・鈴木委員：中尾サポーターの講演について、昨年度から延期が繰り返されているため、できるだけ早期に実施できるよう優先度を意識して取り組みたい。
- ・正村委員：研修事業を実施するにあたり、他の活性化事業（モニター会議、町民との意見交換会等）とのトータルコーディネートをして取り組むことを意見したい。
- ・委員長：令和4年度の研修計画について、現時点で提案のとおり決定としたい。ただ

し、随時、コロナ禍の状況や先方（講師予定者）との協議を踏まえて、変更要素も想定しながら取り組んでいきたい。異議ないか？

- ・（異議なし）
- ・委員長：次に、「6」の北大公共政策大学院との研修について協議する。この研修は、「5」の道議長会主催研修に併せたもので、交通手段を大型バスとして1泊を前提としているが、仮に議長会主催の研修が中止になった場合を想定すると、個別に実施内容を企画するか、もしくは連動させるかの考え方を整理しておく必要があるので、各委員からの御意見を求める。
- ・正村委員：北大大学院との研修については、自己評価及び外部評価に係る専門的知見を要するため、議長会の研修とセットということではなく、（議長会が中止になったとしても）独立した研修として実施していくべきと考える。
- ・常通委員：私も正村委員と同じように、北大大学院との研修は独立事業として実施すべきと考える。なお、手法については、別途協議することとしたい。
- ・黒田委員：議長会主催研修と連動させずに、個別研修として機能させるべきと考える。手法はオンラインも視野に入れながら、一方、議長会主催研修が実施となった際のシミュレーションも時期が近くなった段階で検討しておくべきと考える。
- ・委員長：各委員の御意見を総括すると、（議長会と北大大学院の研修は）連動ありきではなく、個別研修を基本にして実施概要を検討していくこととしたい。異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：最後に、町共催及び一般住民及び他自治体議会の参加について、協議する。例えば、議員会主催事業は議員のみ。公費支出の研修は町民参加等のように基本的考え方を整理しておきたい。
- ・黒田委員：コロナの影響もあり、参加者の範囲設定が限定的になっている傾向はある。しかしながら、研修のテーマや主催（議員会、公費支出等）に応じて参加対象を検討し、手法を並行して模索するなど、ケースごとに検討していくべきと考える。
- ・常通委員：町民等に広く案内できる研修であれば、対象を狭くする理由は何もない。ここ数年は、コロナの影響により、参加者の特定や参加者数の限定等規制はあるものの、議会を知る、なり手不足の解決等にもつながる可能性があり、町民周知は必要な手法である。
- ・正村委員：課題の整理をあいまいにすることなく、実施方針の整理を4月中などに目標設定し整理すべきと考える。
- ・委員長：各委員の意見を本日のまとめとして整理したい。いかがか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：決定とする。

3 その他

(1) 次回の委員会開催日程について

正副一任

(2) その他

- ・委員長：委員各位から「その他」はないか？
- ・鈴木委員：昨日、総務経済常任委員会が開催された。その中で、当該委員会として議運に伝達する事項があるので報告する。町と議会との情報共有の時期について、精査・再考を要するとのことであり、政策形成サイクルとの関連について、議会の調査・審議に支障を来す恐れがあるとのことだった。端的に言えば、町からの情報発信について、早い時期の説明・提案を求めたい意思だった。
- ・正村委員：総務経済常任委員会の意見の趣旨は、委員会調査事項について、町からの情報提供や提案をもっと早くすべきに促すと解して良いか？
- ・鈴木委員：お見込みのとおりである。
- ・委員長：本日、この場で議論はしないが、今後改めて早い時期にミーティングで意見交換したい。異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：議長からないか？
- ・（なし）
- ・委員長：事務局からないか？
- ・（なし）
- ・委員長：以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年3月15日

議会運営委員会委員長 中村和宏